

株主のみなさまへ

第80期

中間報告書

2023年4月1日から2023年9月30日まで

証券コード: 4228

トップメッセージ

中期経営計画
「Spiral-up 2024」の2年目を迎えて

当中間期の発泡プラスチック業界におきましては、食品容器関連の需要は、人流の増加がありましたが、物価上昇などの影響もあり、内中食関連向けの需要は落ち着きをみせております。一方、各種部材や搬送資材・梱包材は、需要が回復傾向にあります。

このような経営環境のなか、当社グループは、前年度からスタートさせた3カ年中期経営計画「Spiral-up 2024」の3つの重点課題に対してグループ全体で取り組んでおります。『収益体質の強化』においては、経営資源の選択と集中による事業ポートフォリオの再構築と抜本的な生産革新や開発品の早期収益化に取り組んでおります。『環境・社会課題解決型事業への転換』においては、「循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大」と「カーボンニュートラル実現への挑戦」を掲げ、SKG-5R*活動推進の一層の強化に取り組んでおります。『経営基盤の強化』においては、人材に関する経営重要課題（マテリアリティ）における取り組みとして「イクボス企業同盟」に加盟するなど、社員一人ひとりがそれぞれの個性を活かして、いきいきと働くことができる職場環境づくりを強化しております。

その結果、連結売上高は649億9千6百万円、連結営業利益は3億3千8百万円、連結経常利益は11億6千8百万円、さらに法人税等を加・減算し、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億5千9百万円となりました。

当中間期の配当につきましては、1株につき3円とさせていただきます。中間配当金の支払開始日は12月4日となります。なお、期末の配当につきましては、9円を予定しております。

今期の見通しにつきましては、連結売上高1,300億円、連結営業利益13億円、連結経常利益17億円、親会社株主に帰属する当期純利益5億5千万円を見込んでおります。

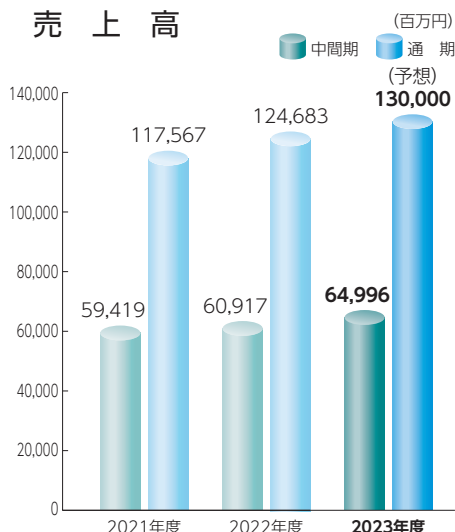
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

*「SKG-5R」は、SKGは積水化成成品グループ、
「5R」は、Reduce, Reuse, Recycle, Replace, Re-createを指します。

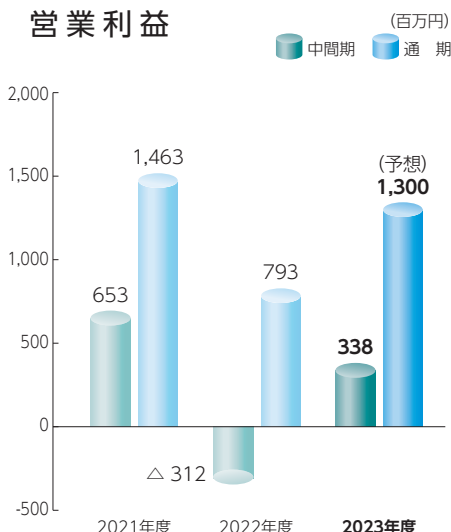


連結財務ハイライト

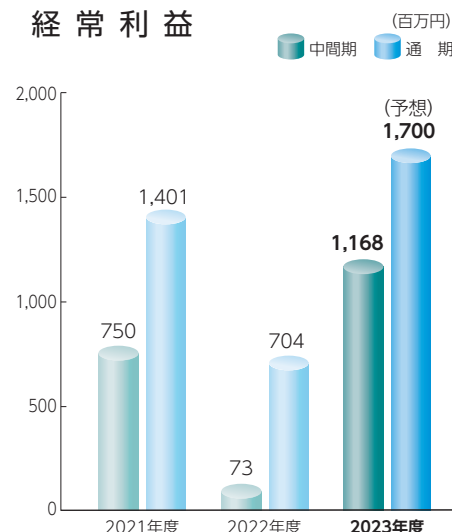
売上高



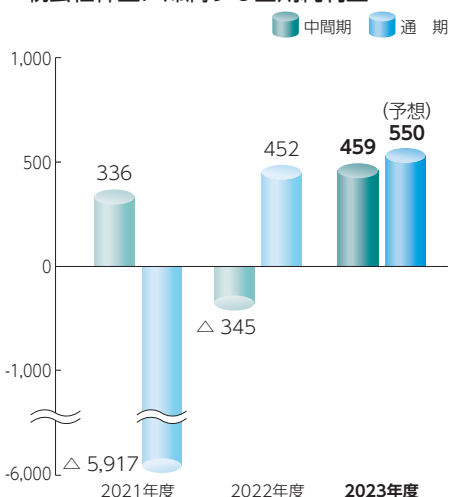
営業利益



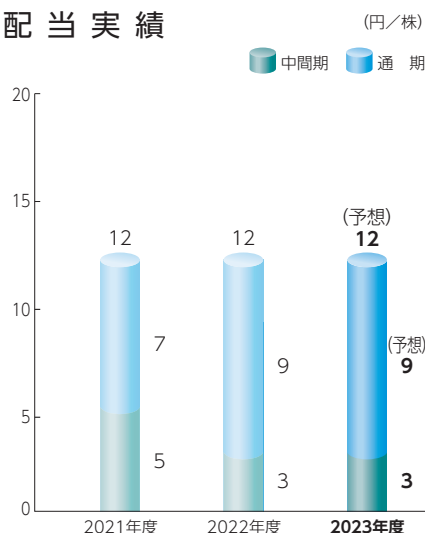
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



配当実績



- ・当中間期は、資源価格の高騰、中食関連向けの需要の落ち着き等の影響がありましたが、エレクトロニクス領域での需要回復、モビリティ領域での自動車生産台数の回復傾向の中、生産性改善、固定費削減、価格転嫁等に努めた結果、前年同期比で増収増益となりました。
- ・配当につきましては、期初公表通り1株あたり3円の配当といたしました。

中間連結財務データ

■ 中間連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

資産の部	前 期 (2023年3月31日現在)	当中間期 (2023年9月30日現在)
流動資産	66,874	70,235
固定資産	78,301	77,045
資産合計	145,175	147,280

(単位：百万円)

負債・純資産の部	前 期 (2023年3月31日現在)	当中間期 (2023年9月30日現在)
流動負債	48,096	53,545
固定負債	38,614	37,167
負債合計	86,711	90,712
純資産合計	58,464	56,568
負債・純資産合計	145,175	147,280

■ 中間連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

	前中間期 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当中間期 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	60,917	64,996
営業利益	△ 312	338
経常利益	73	1,168
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 345	459

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

	前中間期 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当中間期 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	352	1,251
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 660	△ 1,541
財務活動によるキャッシュ・フロー	127	△ 1,298

2023年度中間期の事業別概況（連結）

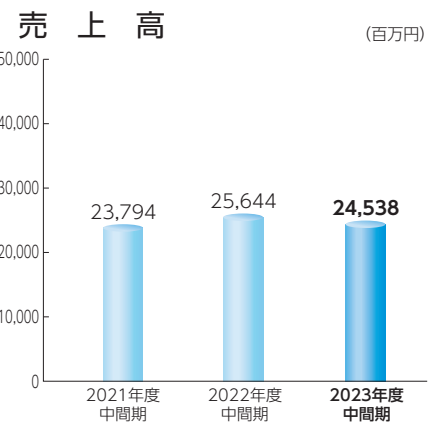
ヒューマンライフ分野

売上高24,538百万円
売上構成比37.8%

食領域においては、食品容器用途は食材価格の値上げの影響も受けましたが、内中食関連向けの需要は堅調に推移しました。農産用途は生育不良や天候などの影響もあり出荷が伸びず、水産用途も漁獲量の減少傾向が継続し低調に推移しました。売上高は価格改定による増加はありましたが、全体的には前年を下回る結果となりました。

住環境・エネルギー領域においては、屋上緑化関係での物件獲得は進みましたが、建材用途・土木用途は工事物件の進捗遅れなどがあり低調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」の売上数量は、納豆容器用途は堅調に推移しましたが、スーパーのトレー用途などの低調、即席麺用途の市場動向による影響もあり、全体では前年を下回りました。また、非発泡容器用途からの軽量化に向けた新発泡シートの開発を進めております。「エスレンビーズ」の売上数量は、クッション用ビーズなどのライフグッズ用途の出荷が減少し、水産分野も低調となったことで、全体では前年より減少しました。



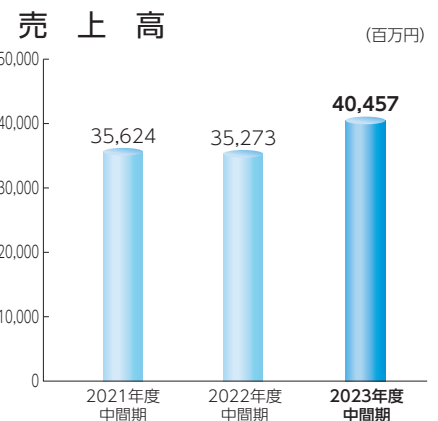
インダストリー分野

売上高40,457百万円
売上構成比62.2%

モビリティ領域における「ピオセラン」は、自動車部材用途では自動車生産台数の回復を背景に好調に推移しました。また、トラック、バス向けのFRP（繊維強化プラスチック）部材などで新たな需要を取り込み、好調に推移しました。欧州のProseatグループでは、欧州自動車市場は緩やかに回復する中、生産量は増加しております。一方でエネルギー価格、人件費の高騰に対し、生産性改善、固定費削減や自動車メーカーへの価格転嫁を進めておりますが、赤字が継続しております。

エレクトロニクス領域では、「テクポリマー」の液晶パネル等の光拡散用途がメーカーの在庫調整の解消により、需要は回復しました。パネル搬送資材・梱包材用途での「ピオセラン」は、台湾では好調に推移しましたが、中国では国内消費の低迷により、前年並みとなりました。

医療・健康領域では、「エラストイル」は、トレーニングシューズ用のミッドソール関連が新モデルの立上げ遅れで低調となりました。「テクノゲル (ST-gel)」は検診需要の回復に伴い、対極板用途などで堅調に推移しましたが、中国向けの売上が減少しました。



トピックス

大阪・関西万博 施設整備事業に、リサイクル原料を活用した「エスレンブロック RNW」が採用

2025年開催の大阪・関西万博では、脱炭素・資源循環に関して「EXPO 2025 グリーンビジョン」が策定され、準備・運営を通じたサステナブル実現に注力しています。

「エスレンブロック」は、自立性、施工性などに優れた軽量盛土材で、道路建設や護岸工事、軟弱地盤の対策などで広く使用されており、今回万博施設整備事業の一部に採用された「エスレンブロック RNW」は、独自開発技術により、使用済み発泡スチロールを回収・再資源化し、リサイクル原料として活用した製品です。

これからも、今例のようなマテリアルリサイクルを促進し、循環型社会への貢献に取り組んでいきます。



エスレンブロックRNW施工風景



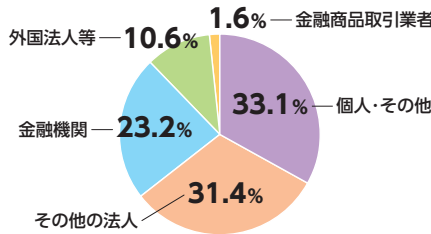
大阪・関西万博会場イメージ図
(提供：2025年日本国際博覧会協会)

株式の状況 (2023年9月30日現在)

発行株式数および株主数

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
124,751,000株	46,988,109株	9,740名

所有者別分布状況 (所有比率)



(注) 所有比率は、自己株式 (1,614千株) を控除して計算しております。

大株主

株主名	所有株式数 千株	所有比率 %
積水化学工業株式会社	9,855	21.72
日本スタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,391	7.47
第一生命保険株式会社	2,146	4.73
積水化成品従業員持株会	2,020	4.45
INTERACTIVE BROKERS LLC	1,509	3.33
積水樹脂株式会社	1,419	3.13
大同生命保険株式会社	1,418	3.13
株式会社エフピコ	1,348	2.97
株式会社三菱UFJ銀行	1,327	2.93
積水化成品取引先持株会	1,241	2.74

(注) 当社は自己株式を1,614千株保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

会社概要 (2023年9月30日現在)

会社の概要

商号 (英文商号) 積水化成品工業株式会社 (Sekisui Kasei Co., Ltd.)
本社 大阪市北区西天満二丁目4番4号
設立年月日 1959年10月1日
資本金 16,533,476,176円
グループ従業員数 3,511名
営業品目
(セグメント別)

ヒューマンライフ分野	市場・用途	主な製品・商品	インダストリー分野	市場・用途	主な製品・商品
	農水産資材、食品包装材、流通資材、建築資材、土木資材	エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品 ESダンマット、エスレンブロックなど		自動車部材、車輻部品梱包材、産業部材、産業包装材、電子部品材料、医療・健康用材料	ピオセラン、ライトロン、ネオミクロレン、セルベット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマップ、ST-LAYER、ST-Eleveat これら成形加工品など

取締役および監査役

取締役	代表取締役社長	柏原正人
取締役	佐々木勝巳	
取締役	廣田徹治	
取締役	浅田英志	
取締役	古林育将	
社外取締役	窪田森雄	
社外取締役	上原理子	
社外取締役	若林市郎	

監査役	常勤監査役	竹腰浩次郎
常勤監査役	松本治	
社外監査役	明石衛	
社外監査役	高坂敬三	
社外監査役	名和道紀	

経営理念

われわれ積水化成品グループは、
人間尊重と相互信頼を基本に全員経営を実践し、
“新しい幸せ”を目指して常にイノベーションをし続けます

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日、期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
TEL 0120-094-777 (通話料無料)



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方にに基づき、より多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字を採用しています。